

伝統に生きる

— あらかわの工芸技術 —



つまみかんざし

とむら きぬよ

戸村 絹代

(平成28年度作品)

DVD

カラー・29分

プロフィール

住 所 荒川区南千住一丁目43番6号

昭和16年(1941年) 山形県白鷹町生まれ

平成9年度荒川区登録無形文化財保持者に、平成27年度荒川区指定無形文化財保持者に認定される。

戸村さんは、昭和32年(1957)に中学卒業後に上京し、実母の妹でつまみかんざし職人であった戸村ひで氏(故人、元荒川区指定無形文化財保持者)の養子となり、同37年、ひで氏に師事して修業を開始し、技術を修得した。先代のひで氏が考案した実用新案登録の技法、変わり剣つまみと針金に直接つまみ片をふく技術を受け継いでいる。

つまみかんざしは、ピンセットで羽二重(絹の生地)をつまみ、花びらを形作り、それらを組み合わせる技術である。

戸村さんは、七五三、成人式、婚礼のお色直しなどのかんざしを製作するほか、ブローチ、コーム、イヤリング、コサージュなどの装飾品や、日本人形用のミニチュアのかんざしも製作する。また、つまみ細工のテーマも伝統的な祝儀事にちなんだ松竹梅や鶴など縁起の良いものだけでなく、多種多様な植物や動物へと広がりを見せている。

企画・著作 荒川区・荒川区教育委員会 制作 株式会社 文化工房

[用具・工具・材料]

「用具・工具」

にぎ ばさみ とうばさみ たちぼうちよう たちいた
ピンセット、鉏（握り鉏、唐鉏）、裁庖丁、裁板、定規、物差し、糊板

「材料」

ごくてん
羽二重、ひめ糊、台紙、針金、極天（絹糸）、ビラ、金糸、カットガラス、足（金具）



[工程]

(1) 裁断

裁庖丁、定規、裁板を使用し、三つ折りの羽二重の生地を2重に重ねて（計12枚重ね）、周囲を新聞紙にくるんで带状に裁断する。新聞紙にくるむことで、裁断する際に、生地がよれづらくなる。その後、物差しで測りながら、必要な大きさ（基本は一寸四方。最大で三寸。人形用は三分）に鉏で細かく裁断していく。

*羽二重は、問屋に必要な色に染めてもらって一反（46m）単位で購入



(2) 糊板にひめ糊を塗る

「つまみ片」を置くために、糊板にひめ糊を均等に延ばす。

(3) つまむ

ピンセットを使用し、羽二重をつまんでいく。つまみ方は先を細く尖らす「剣つまみ」と丸くする「丸つまみ」が基本となる。その他に「丸押しつまみ」や先代の考案した「変わり剣つまみ」など応用した技法がある。つまんだ「つまみ片」を糊板の上に並べていく。その状態で1時間ほど置いておく。



(4) ふく

針金を付けた台紙の上に、ピンセットでひとつひとつ「つまみ片」を配置して、花などの飾りを造形する。



(5) 組み上げ

針金部分に極天を巻き付けて、ビラなどの飾りや足を取り付けてかんざしに組み上げる。

(6) 仕上げ

バランスに気を付けながら、形を整える。

「伝統に生きる—あらかわの工芸技術」は、江戸から受け継がれてきた無形文化財である伝統工芸技術を保存継承し、広く普及することを目的に、荒川区指定無形文化財保持者の技術を記録した記録映像です。DVDは、荒川区の図書館で貸し出していますのでご利用下さい。

問い合わせ先

■ 内容等に関すること

荒川区立荒川ふるさと文化館・・・3807-9234

● 荒川区ホームページ内「あらかわまなびプラザ」

<http://www.city.arakawa.tokyo.jp/arapura/index.html>

■ DVD貸し出しに関すること

ゆいの森あらかわ・・・3891-4349

町屋図書館・・・3892-9821

尾久図書館・・・3800-5821

汐入図書サービスステーション・・・3807-8130

冠新道図書サービスステーション・・・3800-3321

● 荒川区立図書館ホームページ <http://www.library.city.arakawa.tokyo.jp/>

南千住図書館・・・3807-9221

日暮里図書館・・・3807-1654